

課題名⑧：ストロンチウム 89、90 の土壤濃度マップの継続的作成

代表研究者：池内委員(日本分析センター)

1. 調査の目的

- 第1次調査においては、福島第一原子力発電所から 80 km圏内の 100 地点で採取された土壌について、ストロンチウム 89、90 について核種分析を実施した結果、福島第一原子力発電所から 80 km境界付近まで、ストロンチウム 89、90 が確認された。
- 他方で、福島第一原子力発電所から 80～100km 圏内については調査を実施できていないほか、一部の地域について、放射性セシウムに対するストロンチウム 89、90 の沈着量の比率が高い箇所が存在したことや、放射性セシウムに対する沈着量の比率が確認できていないといった状況である。
- そこで、本調査では、第1次調査で実施していない福島第一原子力発電所から 80～100km 圏内及び今回新たに 100km 圏外で採取する土壌について核種分析を実施するとともに、各地点における放射性セシウムとの沈着量との比率について詳細に把握するため、これまでに放射性セシウムの沈着量に対する比率が高い箇所の周辺メッシュについても調査を実施する。

2. 調査内容

第1次調査では、30 グラムの土壌について、化学分離を行い、ストロンチウム 89 及び 90 を測定したが、第2次調査では、第1次調査から時間が経過し、ストロンチウム 89 が減衰していることを考慮し、福島第一原子力発電所から離れている下の 50 箇所については、100 グラムの土壌について、化学分離を行い、低バックグラウンドベータ線測定装置を用いて 1 時間測定する。

3. 調査地点

第1次調査で、放射性セシウムの沈着量に対する、ストロンチウムの比率が高かった箇所の周辺メッシュで、13 試料について、化学分離、測定を実施する。

また、岩手県南部、宮城県北部、福島県会津地方、栃木県北西部、群馬県北西部、埼玉県西部、東京都西部、山梨県東部、茨城県海岸沿い及び南部、千葉県北西部の 50 箇所で土壌を採取する。

これらの地点は、航空機モニタリングで空間線量率及びセシウムの放射能濃度の高かった地域である。

4. 調査の進捗状況

50 箇所の試料採取は終了し、36 試料が化学分離中、5 試料が測定中、14 試料が測定を終えたところである。

5. 今後のスケジュール

3 月中には、測定結果を文部科学省に報告する。

第2次土壤調査 ストロンチウム調査箇所について

